

NPO法人

日本精神療法学会報

第 180 号

発行 平成 26 年 9 月

発行所

長野県佐久市下小田切 338

N P O 法 人

日本精神療法学会事務局

印刷 P O 印刷

合併記念号

第二十回NPO法人日本精神療法学会総会開催される

平成二十六年六月十四日
松本市浅間温泉みやま荘にて

「チェンジング・ジャンプ」

理事長 松本文男

実質四十年余りとなる県カウンセリング研究会を合併し、日本精神療法学会は事業倍増のジャンプを致しました。

傾聴療法士養成講座も名古屋会場から兵庫県西宮会場、そして九月からは岐阜県瑞浪会場、十月から宮城県仙台会場が発足し、カウンセリング・ワークショップも名古屋会場が始められ、兵庫県・大阪府にも動きがみられます。私の日程が少々無理で決定にはならないが、沖縄県や韓国も定期の要望は止まない。正にジャンプの時が来たようです。これ

も会員各位の誠実な協力と熱意ある深い研鑽が全てでありましょう。

正に、チェンジング・ジャンプの年ですが、最も重要なことはこのことの継続でしょう。そして、日本全土に、私達のほんものの精神療法をヨーロッパ先進国の一部並に近づけること、でしょうか。一重にご協力をお願いする次第です。



理事長挨拶

「心の世界」に出会って

「こころって不思議だな…」何となく思っていたのは、六歳の頃だったと思います。その頃、近所にリユウマチで寝たきりのおばさんがいました。そのおばさんは、毎日身体の痛みに耐えていると聞いていました。しかし、そのおばさんが伝えてくれたことが非常に印象的でした。それは「私はもう泣かない。溢れる涙は自分の手でふくことができないから」というものでした。泣き虫だった私はそのとき一種の衝撃を受けました。「ふけない涙があるんだ。悲しくても悲しくても泣けない気持ちがあるんだ…」と。子どもながら、そこに人の心を感じた瞬間だったように思います。

そして、心の世界に出会ったと感じられる大きな経験は、特別支援学校に勤務していたときの子どもたちとの出会いでもあった。子どもたちは、生まれつき脳に重い障害を抱え、自分の思いを言葉にすることができませんでした。それまで言葉を使って人と関わるのが常であった私として、言葉のない世界、言葉に重きを置いてやりとりしない環境に一種の衝撃がありました。しかし、その子たちと関わる中で「訓練ってなんだらう。何かをできるようにさせることに、何の意味があるのだらう。それはその子たちにとって嬉しいことなのだらうか」と戸惑うようになりました。一方、子どもたちと関わる中で確かなことも見えてきました。それはその子たちは体全部で自分の思いを表現するということ、その表情、動き、



長野市 宮崎 恵美子
会員発表のお二人

発表に聞き入る会員の皆さん



行動、その一つひとつが生きている証のようであることでした。その姿はまさに命そのものでした。私はその姿を感じたとき、なぜか心から安心し、感動しました。そして、その子どもたちが求めているものは、一緒に居る人の心なのだと思います。私は、いつしか「この子どもたちの生きる姿、その心をもっと感じられる人になりたい」と思うようになり、懸命に勉強を続けました。しかし、机上で「心の世界」と真に出会えるわけはありません。

心の世界と真に出会えたと感じたのは、松本先生との出会いでした。「心の世界は理屈じゃない、言葉じゃない！」自分の心の中で響きました。鳥肌が立つくらい感動し、心の世界の本当だと感じたのです。またワークに参加することを通して、かけがえのないものを得ました。その一つが「用意しない自分の言葉がある」ということです。例えば私には、大切な従兄弟のお姉さんとの別れがありました。そのお姉さんは医者か

らうつ病といわれ、沢山の薬を飲んでいました。毎日大量の涙を流していたようです。流しても流しても足りない涙……。入院を繰り返していた矢先、事故で帰らぬ人となりました。その事実を知った私の衝撃は相当大きなものでした。私は心から悲しかった。悔しかった。しかし追い討ちをかけるようにショックだったことは、周囲から聞く言葉やそこに漂う雰囲気でした。持つて行き場のない思いがありました。葬儀を終えたある日のこと、お姉さんが夢に出てきました。私は、子どもを抱っこしたお姉さんの姿を見つめ、張り裂けそうな思いで必死に声を出そうとしました。しかしその瞬間、お姉さんが少し微笑みながら、私に向かって会釈をしてくれたのです。ある日のワークで、そのことを話してみたくありません。途切れ途切れ話し、語り終えるかなと思ふ頃、自分の中から思ってもみない言葉が出てきました。それは「自分がそのお姉さんを大好きだから、それは変わらないから……それでいい」というものでした。「今のは自分の言葉かな」と疑うような感じでした。そして「本当はこんなことを思っているんだ」と安堵し、お姉さんの死は自分の中にそっと位置づきました。そのとき「本当に出したい言葉は用意するものではない。そして、湧いてきた言葉や思いは、生涯から思っています。」

NPO法人日本精神療法学会と 長野県カウンセリング研究会の合併

松本市 藤原 健志

小学校六年生の伊勢への修学旅行の夕食後、大広間に集まって演芸会がありました。怒らせてしまうと怖いと小学生の間にも評判の男性教師が司会進行兼審査員を務めていました。会が佳境に差し掛かった頃、旅館の従業員さんが、子供達の後ろの壁際に布団を積みはじめたのですが、いつもおっちょこちよいで怒られてばかりの一人の男子がその布団に飛び乗りました。刹那、男性教師の顔が変まりました。男性教師はその男子を中央に引きずり出し、汚い言葉で罵りながら、頬をたたいたり、突

き飛ばしたり、また引っぱり起こしてはたくを繰り返しました。

中学になって吹奏楽部に所属しました。いわゆる名門の吹奏楽部で顧問は厳しい指導で有名な音楽教師でした。全体練習でミスした生徒がいると、教師はその生徒を前に呼び出し、箒の柄を野球のバットのようになりかぶり尻を力一杯たたいたのが恒例になっていました。

長野県カウンセリング研究会設立総会が開かれたのは昭和四十四年で、僕がちょうど中学に入学した年に当たります。当時、少なくとも僕の周囲

では教師の体罰は日常茶飯事で、「いやだなあ」とは思っていたけれど、疑問に感じることはありませんでしたし、新聞沙汰になることはありませんでした。「そんなもんなんだろうな」とあきらめていたように思います。似たようなことは、日本国内で起こっていたのかもしれませんが。そんな時期に、長野県では「本県生徒指導充実のための研鑽をはかることを目的とし」「カウンセリングの世界から」「人間教育」「信州教育」を考える研究会が発足したので、松本先生を中心とした長野県の教育界はいかに進歩的であったかと驚くばかりです。その後研究会

は四十八年間、ワークショップやサークルを通して、単に教育界だけではなく産業界や医療関係、一般家庭生活の中でカウンセリングと人間の心の大切さを啓蒙し続けてきました。

一方、平成六年に「地域住民の心悩む人々に対し、いつでも、どこでも、誰にでも、傾聴及びカウンセリングを提供する」ために長野県カウンセラー協会が設立されました。平成十六年にNPO法人化し、平成二十年には「傾聴療法士」資格の特許を取得しました。会の発展に伴い、会員は長野県内にとどまらず、北は北海道から南は沖縄まで、あるいは韓国までにおよび、長野県カウンセラー協会だけに留まらないこと、活動内容もカウンセリングのみならず、傾聴療法・認知行動療法・論理療法・イメージ療法・脳科学療法と多様になり長野県カウンセラー協会という名称だけでは全てを説明できなくなってきたことから、平成二十三年NPO法人日本精神療法学会と名称変更し、改名記念「心のルネッサンス講演会」を開催したことは記憶に新しいところです。

第二十回NPO法人日本精神療法学会総会において、研究会と学会が一つになり、NPO法人日本精神療法学会としてさらなる歴史を積み重

ねることになりました。

数年前にNHKのカウンセラー養成講座で勉強をはじめた頃から、研究会と協会（現在の学会）の違いが実はよくわかりませんでした。不勉強ゆえに今だによくわからない部分もありますが、誤解を恐れずにいえば、研究会はカウンセリングを自身で研究することが中心（受動的）であり、学会はカウンセリングを社会に提供することが中心（能動的）であると理解しています。しかし、実際には両者は複雑に絡み合い、重複する部分が多々あり、厳密に区別することは難しいように思います。また、この秋には当学会独自のカウンセラー資格（心身カウンセラー）が特許庁から認可される予定です。従って、研究会と学会の複雑な関係を解消し、新資格を長野県にとどまらず、全国的あるいは国際的に名を轟かせるものとするために、研究会と学会が合併する機は熟していたように思います。

ですから、松本先生から「研究会と学会を合併する」というお話があったとき、一も二もなく賛成しましたし、そのための総会の議長を務めるようにといわれて、喜んで引き受けました。しかし、よくよく考えてみますと、非常に大変な役目を引き受けてしまったことに気づき、

後悔しながら総会当日を迎えました。通常議題終了後、合併議題は会員の皆様から無事ご承認をいただくことができました。総会が終わった後は重荷が下り、放心状態となり、研究行事の間は口がきけない状態でした。しかし、今となつては貴重な体験をさせていただいたことを感謝しております。

最後になりましたが、合併議題は非常に重要な案件であったため、議事の進行に時間がかかり、予定時間を大幅に超過してしまい、総会後のワークショップにまで影響を与えてしまいました。この場をお借りしてお詫び申し上げます。



総会前、専門委員会の様子



会場受付にて

NPO法人日本精神療法学会 カウンセラー資格認定について

NPO法人日本精神療法学会では、世界に通じる人格変容と病状の完治を目的とした、本物のカウンセリングを実践していくために、カウンセラー3級・2級・1級の資格認定を行う事となりました。受講資格は特にありません。カウンセラー3級から着実に取得されても、直接カウンセラー2級を目指しても良いですが、カウンセラー1級の審査申請はカウンセラー2級を取得された方とします。

カウンセラー資格認定およびその研修基準について

カウンセラー級	研修・レポート	審査申請書類
カウンセラー3級 (基礎)	1 研修(学科等) 1ヶ年以上 2 研修(実践) カウンセリングワークショップ10日以上 3 実践記録 8,000字以上 1ケース以上で 「私の考えるカウンセリング」を入れてまとめる	・資格認定審査申込書 ・研修報告書・実践記録 上記に審査料 2,000円を添え提出 (登録料20,000円)
カウンセラー2級 (専門)	1 研修(学科等) 3ヶ年以上 2 研修(実践) カウンセリングワークショップ30日以上 3 実践記録 15,000字以上 (1～2ケース、状況説明と逐語記録を含む) 「私の考えるカウンセリング」を入れてまとめる	・資格認定審査申込書 ・研修報告書・実践記録 上記に審査料 3,000円を添え提出 (登録料30,000円)
カウンセラー1級 (講師)	1 研修(学科等) 8ヶ年以上 2 研修(実践) カウンセリングワークショップ80日以上 3 実践記録 30,000字以上 4 面接日は事務局より連絡する (1～2ケース、状況説明と逐語記録を含む)	・資格認定審査申込書 ・研修報告書・実践記録 上記に審査料 5,000円を添え提出 (登録料50,000円)

研修(学科等)

松本文男理事長が講師のカウンセラー養成講座

長野県カルチャーセンター・松本NHK・穂高教室・前橋NHK・川越NHK・名古屋NHK

研修(実践)

本会主催のカウンセリングワークショップ。(1泊2日で2日。2泊3日で3日)

こどもの心講座・各地区での2時間ワーク(5回出席で1日)

- ・長野県カウンセリング研究会(全日本カウンセリング協議会併記)の認定したカウンセラー資格保有者は、移行用資格認定申請書と手数料5,000円で本会の新資格となる。(本人申請)
- ・他団体の資格保有者(認定カウンセラー・メンタルケアカウンセラー・健康心理士・臨床心理士・産業カウンセラー)については実践記録書(逐語記録含む)と審査料で申請し試験面接。
- ・現在特許庁に資格認定を申請中。
- ・詳細な資格認定基準の冊子を作成中。

[送付先 〒382-0072 長野県須坂市大字小河原370-8 齊藤恵子 Tel 026-248-2775]